

P13b V1647 Ori and Mcneil's Nebula の測光

勝浦 真弓子、定金 晃三、大西 高司、新井 彰、堀 美沙、黒崎 恵、住友 那緒子、中村 健祐 (大阪教育大学)

2004年2月3日発行のIAUC8284号(国際天文学連合回報)で、J.W.McNeil氏によってオリオン座のM 78星雲の近くで新しい星雲が発見されたことが報告された。この天体(V1647 Ori)は、オリオンの星生成領域にある暗黒星雲L1630(リンズ1630)の中にある。それ以前の観測では、「IRAS05436-0007」や「2MASS J05461313-0006048」などと呼ばれる赤外線天体として検出されていたが、急に可視光の領域でも見えはじめた。過去に撮影されたシュミット乾板を調べた結果、2003年11月15日以前にはI(近赤外)バンドでは17等よりも暗く、同年12月15日には15等台まで明るくなっていたことが報告されている。

今回、私たちは大阪教育大学51cm反射望遠鏡を用いて、2004年9月30日からVRI・Hの測光観測を行った。観測視野は15'X10'であり、まず視野内にある12個の恒星の測光をして、変光していない比較星を探した。結果として2個の比較星を決め、それらに対して相対測光を行った。現在までの2ヶ月の間(13夜のデータ)にI-bandで0.5等ほどの不規則な光度変化が見られた。2日間で0.2等級の変光も観測された。三月末まで観測を継続して結果を報告する予定である。